

# ラムサール条約登録湿地

栃木市

# 渡良瀬遊水地

2012年（平成24年）7月6日から13日にルーマニアのブカレストでラムサール条約第11回締約国会議（COP11）が開催され、**渡良瀬遊水地**（登録湿地面積：2,861ha）が国際的に重要な湿地の基準に該当したとして条約事務局より登録認定証が授与されました。（登録簿掲載は7月3日付）市は渡良瀬遊水地の本来の目的である治水機能の充実を図りながら、多様な動植物が生息する湿地の自然環境を保全・再生し、賢明な利用を促進します。

## 【渡良瀬遊水地が該当した国際的に重要な湿地の基準】

〈基準：各生物地理区内で、代表的、希少又は固有な湿地タイプを含む湿地〉

- ・生物地理区（日本）を代表する低層湿原です。
- ・本州最大のヨシ原を主体とする湿性草地在存在します。
- ・河川の氾濫原を主な生育環境とするトネハナヤスリ、タチスミシなどをはじめとする希少種約60種を含む1,000種以上の豊富な植物種が生育する湿地で、本州以南の低湿地の代表例です。また、環境省レッドリストで絶滅危惧IB類に掲載されているチュウヒをはじめとする猛禽類の越冬地やツバメのねぐらとして利用されています。

## 【ラムサール条約とは】

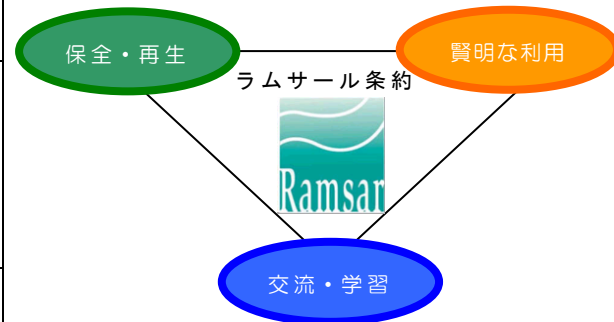
1971年（昭和46年）にイランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」において「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」が採択されました。この条約は開催地にちなみ、一般に「ラムサール条約」と呼ばれています。

この条約は、特に水鳥の生息地等として国際的に重要な湿地及びそこに生息・生育する動植物の保全を促進することを目的とし、各締約国がその領域内にある湿地を1か所以上指定し、条約事務局に登録するとともに、湿地及びその動植物、特に水鳥の保全促進のために各締約国がとるべき措置等について規定しています。2012年（平成24年）5月現在、締約国160か国、登録湿地数2,006か所、その合計面積は、約193万km<sup>2</sup>に及びます。

日本国内では、37か所（約1,310km<sup>2</sup>）の登録がされていましたが、今回の締約国会議において、渡良瀬遊水地を含め、9か所が新たに登録になり、日本国内での登録地は46か所（約1,380km<sup>2</sup>）となりました。

## 【ラムサール条約の3つの柱】

保全・再生	水鳥の生息地としてだけでなく、私たちの生活環境を支える重要な生態系として、幅広く湿地の保全・再生を呼びかけています。
賢明な利用	ラムサール条約では、産業や地域の人々の生活とバランスのとれた保全を進めるために、湿地の「賢明な利用（ワイズユース）」を提唱しています。賢明な利用とは、湿地の生態系を維持しつつそこから得られる恵みを持続的に活用することです。
交流・学習	ラムサール条約では、湿地の保全や賢明な利用のために、人々の交流や情報交換、教育、参加、啓蒙活動を進めることを決議しています。

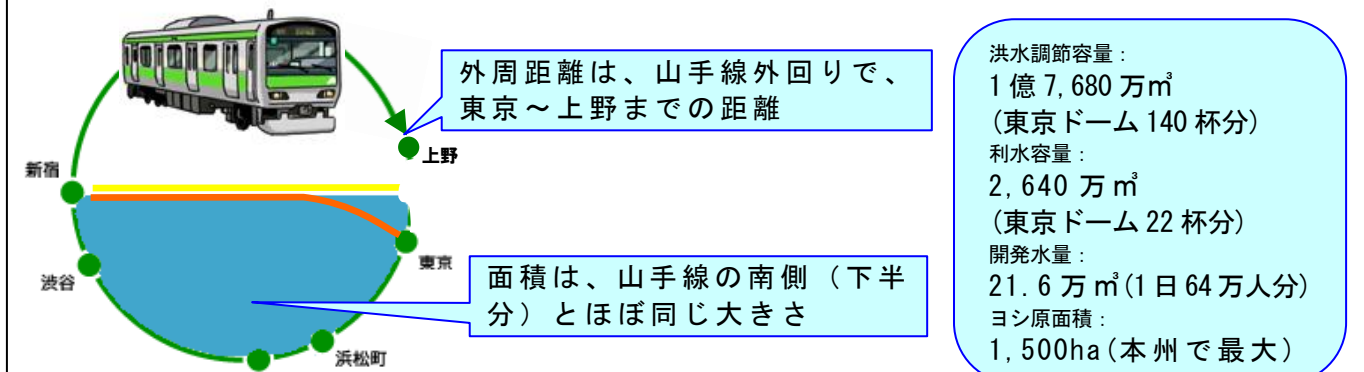


## 【渡良瀬遊水地の概要】

渡良瀬遊水地は、東京から約60kmに位置し、4県（栃木県、群馬県、埼玉県、茨城県）の4市2町（栃木県栃木市、栃木県小山市、栃木県野木町、群馬県板倉町、埼玉県加須市、茨城県古河市）にまたがる本州最大の遊水地です。遊水地には、渡良瀬川、思川、巴波川の3つの川が流れ込み、約4km下流で日本一大きな利根川に合流しています。

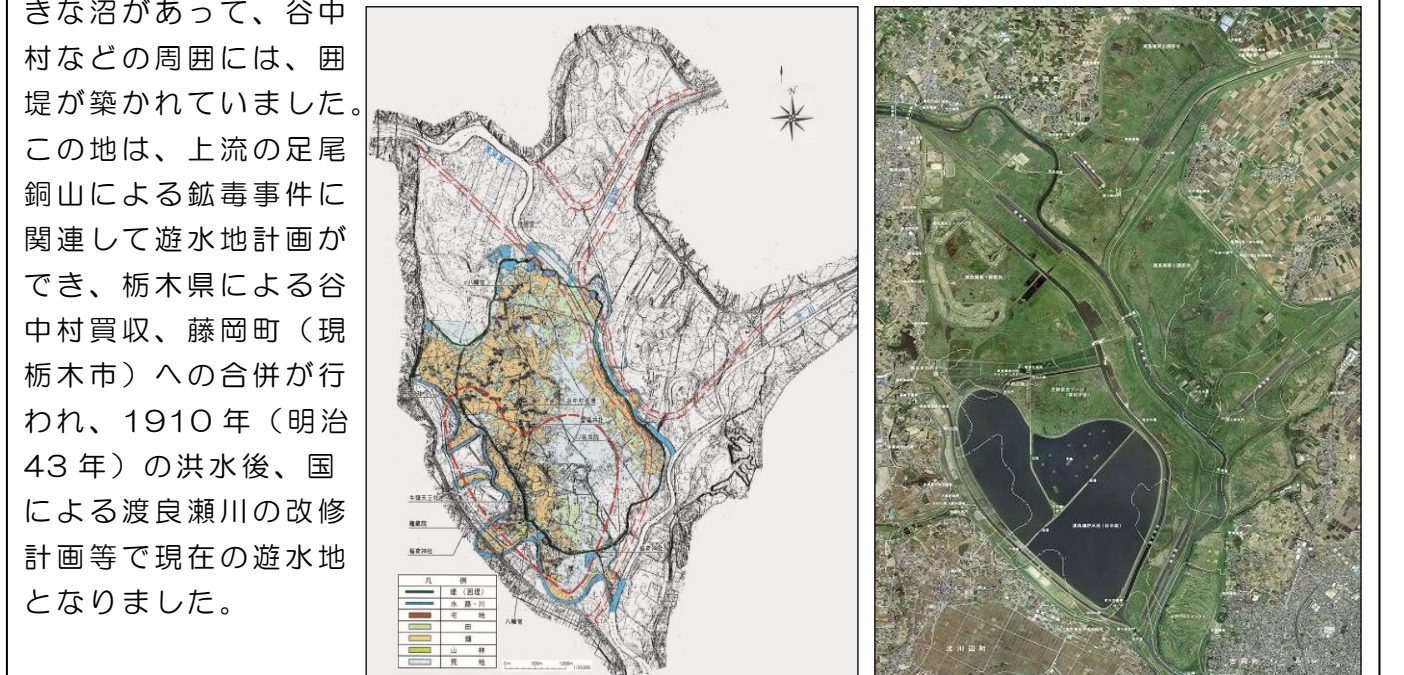
渡良瀬遊水地は、南北に約9km、東西に約6km、周囲の長さが約30kmで堤防や台地により囲まれています。その広さは、約3,300haです。また、緑豊かな広大なヨシ原が特徴で、貴重な動植物が数多く確認されています。

これは、遊水地の機能を保持するために、ヨシ原や沼を自然に近い形で残してきたことによるものであり、かつ、低地における広大な自然環境が保全されている渡良瀬遊水地は、まさに「自然の博物館」ということができるでしょう。



## 【渡良瀬遊水地の生い立ち】

渡良瀬遊水地が遊水地となったのは、1910年（明治43年）から1922年（大正11年）にかけて実施された渡良瀬川改修工事によるものです。それ以前の渡良瀬川は、遊水地の西側を海老瀬七曲がりといわれるように曲がりくねって流下し、思川、巴波川は、現在の遊水地の南部を流れ、渡良瀬川に合流していました。また、北部には、赤麻沼、石川沼という大きな沼があって、谷中村などの周囲には、囲堤が築かれていました。



明治時代

現在

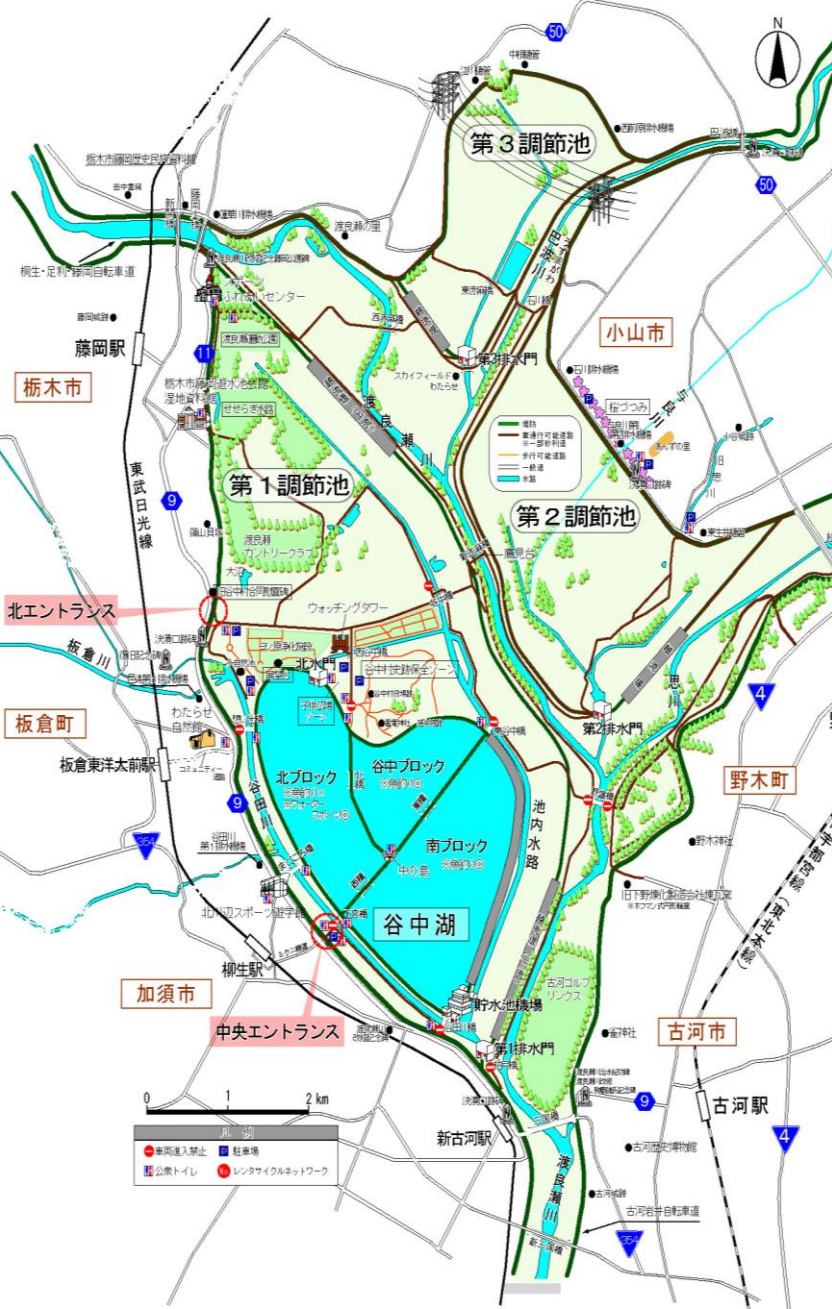
この地は、上流の足尾銅山による鉱毒事件に関連して遊水地計画ができ、栃木県による谷中村買収、藤岡町（現栃木市）への合併が行われ、1910年（明治43年）の洪水後、国による渡良瀬川の改修計画等で現在の遊水地となりました。

**【渡良瀬遊水地は四季折々のアクティビティが楽しめます】**

渡良瀬遊水地のヨシ原には、多数の動植物が生息しており、植物で約 1,000 種、鳥類約 250 種、昆虫類約 1,700 種、魚類約 50 種の生態系が形成されています。広大なヨシ原や樹木、池沼には、チュウヒをはじめサシバ、チョウゲンボウなど日本で見られる野鳥の半分が確認されています。現在、関東地方でこれほどの豊かな自然環境を維持している地域は限られており、大変貴重な場所となっています。

また、年間を通して広大な渡良瀬遊水地の中で、豊かな自然を活かしたスカイスポーツ(熱気球、スカイダイビングなど)、ウォータースポーツ(カヌー、小型ヨットなど)、サイクリングなど渡良瀬遊水地の自然を楽しみながら、さまざまなアクティビティを楽しむことができます。

**《渡良瀬遊水地マップ》**



スカイダイビング



熱気球



カヌー(谷中湖)

**【渡良瀬遊水地の自然】**

**【植物】**

トネハナヤスリ、ノウルシ、スミレ、チョウジソウ、アザミ



トネハナヤスリ

コキツネノボタン、ハンゲショウ、タコノアシ、タヌキマメ、エゾミソハギ、シロネ、キキョウソウ、ガマ、ホソバオグルマ、ネジバナ

タデ類、ワタラセツリフネソウ、ツリガネニンジン、フジバカマ、オギ、ヨシ



ワタラセツリフネソウ

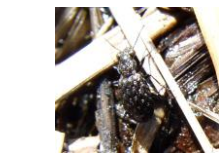
**【野鳥】**

1年を通して見られる

カイツブリ、ダイサギ、アオサギ、バン類、トビ、オオタカ、チョウゲンボウ、カウセミ、ハクセキレイ、ウグイス、ホオジロ、ムクドリ、オナガ など

コアシサシ、ヨシゴイ、ササゴイ、アマサギ、チュウサギ、コチドリ、サシバ、ツバメ、オオヨシキリ、コヨシキリ

**【昆虫】**



ワタラセハンミョウモドキ、オオルリハムシ、ムモンチャイロテントウ、クロスヒョウタンナガカメムシ

クルマバッタモドキ、エンマコオロギ、クツワムシ、トノサマバッタ、オンバッタ、コガネムシ、ツマガ、クロヒョウモン、カノコガ、チョウトンボ、ショウリョウバッタモドキ



チョウトンボ、1年を通して見られる

ワタラセハンミョウモドキ、スジハサミムシモドキ、アオゴミムシ、アカガネオサムシ など



**【渡良瀬遊水地への案内図】**



◎車をご利用の方  
 ・東北自動車道  
 「佐野藤岡 IC」  
 「館林 IC」より約 20 分  
 ※カーナビをご利用の方は、下記の所在地を目安にお越しください。  
 栃木県栃木市藤岡町藤岡 1778 (渡良瀬遊水地湿地資料館)

◎電車をご利用の方  
 ・東武日光線「藤岡駅」下車  
 ・JR 宇都宮線「古河駅」下車

◎バスをご利用の方  
 ・栃木市ふれあいバス(藤岡線)「藤岡総合体育館」、「谷中湖(土日祝日のみ運行)」、「道の駅きたかわべ(平日のみ運行)」下車  
 ※ふれあいバス時刻表は、栃木市ホームページをご覧ください。

**【渡良瀬遊水地関連サイト】**

- 栃木市 <http://www.city.tochigi.lg.jp/>
- (財)渡良瀬遊水地アクリメーション振興財団 <http://watarase.or.jp/>
- 栃木市観光協会 <http://www.kuranomachi.jp/>
- 栃木市藤岡町観光協会 <http://fujioka-kankou.sakura.ne.jp/>
- 環境省(ラムサール) <http://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/index.html>

**【問い合わせ先】**

栃木市総合政策課  
 遊水地フェイスクラス担当  
 Tel 0282-62-0919  
 (財)アクリメーション振興財団  
 Tel 0282-62-5558

**【発行】**(H25.8.12版)

栃木市総合政策課  
 遊水地フェイスクラス担当